

自主企画事業

「沖縄観光 2020 プロジェクト～未来を担う若者たちからの提案～」実施について

1. 目 的

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー（以下、OCVB）は、昨年度まで、沖縄県事業の一環として、県内の学生が学生ならではの視点で、おすすめの卒業旅行プランを作る「学卒プロジェクト」を展開し、地域観光産業関連事業者との交流を組み込み、県内学生の観光業界への興味関心を促し、観光を身近なものとして捉えてもらうことと併せ、国内市場における学生層の安定的な誘客と観光経済効果の向上を図るべく 4 年間取り組んでまいりました。今年度は OCVB の自主事業として新たな展開を図り、単年度事業では取り組むことのできなかった、継続的なプロジェクトとして「沖縄観光 2020 プロジェクト」を立ち上げます。

「学生を主体とした」軸は変えずに、2020 年「東京オリンピック・パラリンピック」の開催に伴い、日本が次なる観光のステージの幕開けを迎える今、ここ沖縄で 2020 年までに何に取り組むのか、そして 2020 年以降も日本を代表するリゾート観光地として、世界から選ばれる沖縄になるために何を実現していくのかを、未来を担う若者たちの自由な発想で考えていきたいと思います。今回のプロジェクトは、「うちなーの翼で沖縄を世界へ」を掲げ、様々な分野で地域貢献に取り組む日本トランスオーシャン航空株式会社（以下、JTA）と株式会社 JALJTA セールス（以下、JALJTA セールス）三社の共催で行い、県内学生が観光を通し、沖縄の豊かな未来を描けることを目的に取り組んでいきます。

2. 実施概要（案）

名 称：沖縄観光 2020 プロジェクト～未来を担う若者たちからの提案～

主 催：OCVB・JTA・JALJTA セールス

対 象：沖縄県内の大学、短期大学、専門学校に在籍する学生

日 程：10 月中旬よりエントリー開始（詳細は別添資料参照）

内 容：

（1）基礎知識の強化：観光に関する講義、ワークショップの実施

主催者である OCVB、JTA、JALJTA セールスが実施する講義やワークショップを通し、掲げたテーマの情報収集や意見交換を行い、課題解決

に向けた理解を深めるとともに、観光の現場で働く職員との交流の中で、学生が社会人に向けての第一歩を踏み出すきっかけの場を提供する。

(2) 大学・専門学校間の垣根を越えた交流の場の提供

プロジェクトに応募した学生チームは、絞り込んだテーマごとに複数チームが集まって混合チームを編成し、以後のプロジェクトを進めていく。学生が自由に個々の意見をぶつけ合い、また、各自が得意とする分野での力を発揮する環境を協力しながら構築していくことで、沖縄の未来を共に創り上げる意識を高めていく。

(3) 沖縄旅フェスタ 2018 in 沖縄コンベンションセンターへの参加

アウトバウンド施策として、本県で唯一の旅に特化した当該イベントで、沖縄発の直行便を有する国内外都市のブースのサポート業務や、イベント運営事務局の業務を通し、国内外の観光業界で働く大人たちと直接関わり、観光プロモーションや受入のノウハウを学ぶ。また、イベント現場の躍動感を体感し、県民の旅への意識の高さを認識することで、沖縄観光の可能性を知ることができる。

(4) OCVB・JTA トップとの意見交換

主催である OCVB 会長平良朝敬、JTA 代表取締役社長丸川潔のそれぞれと学生たちが直接意見を交わす場を設け、沖縄観光において常に新しい取り組みを積極的に行う二人からのフィードバックも得つつプロジェクトを進める。

(5) 「沖縄観光振興に関する提言書」学生枠のとりまとめ・手交式の参加

沖縄観光が抱える課題を抽出し、観光振興に関連する事業のあり方等について議論する「OCVB 推進委員会」の取り組みを共有し、当該プロジェクトで絞り込んだテーマを「学生枠（仮称）」としてとりまとめる。年度末、もしくは次年度初頭に沖縄県知事への「沖縄観光振興に関する提言書」手交式にプロジェクト代表が出席し、直接「若者の声」を県へ届ける。

(6) 広報展開

参加学生による SNS 発信やプロジェクト全体の様子を都度情報発信することで話題性を作る。

①instagram の活用

「#沖縄観光 2020」のハッシュタグを付け、当該プロジェクトの取り組みを随時更新する。

②プレスリリース

県内メディアに大きな取り組みを行う際、随時プレスリリースを行う。

以上